
道

ミッシ・ゴッシュ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
道

【Nコード】
N5287F

【作者名】
ミッシ・ゴツシュ

【あらすじ】
道——その道は何処へ続くのだろうか……。

行く先の知れない道が連なる岐路が在った。幾重にも別れたそれらの集合地点、まるで道を乱雑に重ね合わせたかの様な場所に、一人の少年が茫然と立ち尽くしていた。

道と道の間は天に届かんばかりの壁が、厳めしく聳えている。或る一本の道を選べば、その他の道の辿り着く地を知る事も、引き返し別の道を歩む事も叶わない。

少年は四顧し、周囲の道を数えると、先程まで歩んで来た道を含めて十に別れている事が判った。

太く堅牢な造りの平坦な道。

七曲がりした勾配の緩やかな道。

草花の咲き誇る鮮やかな道。

その有り様は色々である。

暫しの間思考を巡らせていた少年は、程なくして壁や床から棘の生えた荊の道を選び、確かな足取りで歩み始めた。その背中を見守る者が二人、口角を吊り上げ手を振っていた。

幾重にも別れた岐路の中心に、傷だらけの青年が蹲っていた。その周囲には道が四本。

壁や床から棘が飛び出している道。

其処彼処に亀裂の目立つ粗悪な道。

樹木生い茂る先の見えない薄暗い道。

赤い液体が其処ら中に飛散している道。

青年は身じろぎ一つせず、自らが産み出した血溜りの中で、浅い呼吸を繰り返すばかり。瘦けた頬は濡れ、落ち窪んだ双眸からは、誰に憚るでもなく留処ない涙が溢れていた。その涙の理由を、青年が自ら口にする日は永遠に來ない。

虚空を彷徨う瞳に、在りし日の光景が映る事は二度とない。嘗て青年の背中を見送った者も、今や何処とも知れぬ地で新たな門出を祝っていた。

忌まわしい記憶を振り払うが如く、青年は衰えた軀に鞭を打ち、勢いよく立ち上った。しかし、その足許は覺束ない。それでも尚、歩み始めたのは過去との決別か、或いは未来を断ち切る為か。

その道の先は、歩んだ者にしか判らない。

2008／8／19

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5287f/>

道

2011年1月16日01時42分発行